別記様式３（第22条第1項関係）

　　年　　月　　日

学　　長　　殿

動物実験責任者

所属・職名：

氏　名：

動物実験結果報告書

琉球大学動物実験規則第22条第1項の規定に基づき、下記のとおり報告します。

|  |  |
| --- | --- |
| １．承認番号 |  |
| ２．研究課題名 |  |
| ３．実験の結果（該当する項目のすべてをマークすること。その他の理由を選択した場合、理由を括弧内に記載すること。実験等実施結果について、その概要を記載すること。） | □ 承認計画の内容に沿って実施した□ 変更届の提出及び受理後、変更後の内容で実施した□ 次年度も引き続き上記計画を実施する□ 上記計画を終了または完了した終了・完了後における、上記計画で使用していた動物の学内飼育の継続　　□有　□無「有」の場合□ 他の承認計画で使用する□ その他の理由　　　　　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□ 報告対象年度内では未実施だった□ 次年度も上記計画を継続する□ 上記計画を中止または終了した中止・終了後の、上記計画で使用予定だった動物の学内飼育の継続 □有 □無「有」の場合□ 他の承認計画で使用する□ その他の理由　　　　　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 実験等実施内容の概要 |
| ４．使用動物（報告対象年度に実施した内容について記載すること。苦痛度A計画や、数について説明を加えたい場合など、必要に応じて自由記入欄を使用すること。） | 動物種 | 実験等での死亡数・殺処分数または実験等で扱った数 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
| 自由記入欄 |
| ５．研究成果あるいは教育成果の概要 |  |
| ６．点検□報告対象年度内では、計画していた実験等を一切実施しなかった　（■の場合、以降の回答は不要）安全管理上注意を要する実験等を実施した□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　） □該当なし説明:法令遵守上注意を要する実験等を実施した□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　） □該当なし説明:動物、あるいは実験活動（野外活動を含む）に起因する、人の傷害や疾病（アレルギーを含む）の罹患が□ なかった □ あった□ 動物に起因 □ 装置・器具・試薬等に起因 □ 野外環境に起因 □ その他傷害・疾病の内容と経緯:目的を達成する上で、使用動物種の選択と利用は適正だったか□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　）説明:□ 報告対象年度内では苦痛度Aの実験等のみを実施した（■の場合、以降の回答は不要）使用動物数の削減に努めたか（実験使用数や殺処分数の削減、あるいは、ストレスを受ける動物数の削減）□ 苦痛度Dの実験等実施□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　）□ 殺処分処置を含む、苦痛度B～Cの実験等実施□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　）□ 殺処分処置を含まない、苦痛度B～Cの実験等実施□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　）説明:動物の苦痛軽減および排除、そして安楽死処置を、承認計画の内容に沿って適正に行ったか□ 苦痛度Dの実験を、人道的エンドポイントに沿って実施した□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　）□苦痛度Dの実験を、人道的エンドポイントに代わる措置を講じて実施した□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　）□ 侵襲性の高い大規模存命手術（開胸術、回復術、開頭術など）で、術後観察および術後管理（消毒、鎮痛、補液、抗生剤投与、保温など）が必要な実験を実施した□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　）□殺処分処置を含む、苦痛度B～Cの実験等実施□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　）□ 殺処分処置を含まない、苦痛度B～Cの実験等実施□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　） □ 苦痛軽減・排除が不要な計画であり該当なし説明:動物に実験目的以外の障害や疾病が生じたか□ 生じなかった □ 生じた適正な治療や措置（安楽死処置を含む）を実施したか□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　）説明:□ 野生動物を捕獲して実験等を実施した（■の場合、下の回答を続ける）野生動物の捕獲・輸送・移動（死体やサンプリング後の試料の輸送を除く。）□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　） □ 生体の輸送・移動を実施しなかった説明:捕獲した野生動物の放逐（目的とする動物と、目的外の混獲動物の両方）□ 適正だった □ 問題があった（　　　　　　） □ 放逐を実施しなかった説明: |